広報 ずし
ZUSHI Public Information
2010 10
No.811

巻頭特集

施設と取り組みの両面から教育環境を充実

学校支援地域本部、電子黒板、校庭芝生化…。
的確に機会をとらえ、さまざまな角度から次世代を育てるために最適な教育環境を、市は模索し実現していきます。

今月号の主な内容

社会参加・市民活動ポイントシステム 5
第34回逗子市民まつり 6
みんなの消費生活展 6
避難所運営訓練に参加しよう！ 8
市民意見募集 9
まちづくりトークを開催します 9
第60回逗子市文化祭プログラム 18
逗子市体育協会創立60周年 24

逗子市役所 〒249-8686 逗子市逗子5丁目2番16号 TEL 046-873-1111 FAX 046-873-4520（市長室直通ファクス FAX 046-872-5555） URL http://www.city.zushi.kanagawa.jp/

特集 施設と取り組みの両面から教育環境を充実

公教育の使命と未来

新教育長に聞く

青池寛教育長

昭和38年横浜国立大学卒業。横須賀市立追浜中学校、横須賀市教育委員会、横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉中学校などを経て、学校法人三浦学苑常任理事から逗子市教育長に。

6月21日に着任した青池教育長は、公立中学校教諭を皮切りに教育者としてのキャリアを50年近く積み重ねてきました。その経験を活かしどのように逗子の公教育の舵取りをしていくのか、逗子特有の教育の現状や課題についてどうとらえているかを聞きました。

「学べてよかった」「通わせてよかった」「働けてよかった」と言える学校に

Q 逗子市立の小・中学校はどんな印象？

一人一人の子どものシグナルを見落とさないために1人の先生が見る児童数をなるべく減らし、1人の児童になるべく多くの先生がかかわることが大切だと、私は考えています。その点で逗子は少人数指導教員などを上手に活用し、きめ細やかな教育をしていると思います。どの学校の教室を見ても、荒れている感じがなく、全体にいい教育環境が保てています。学力も平均より高いですね。各学校の経営方針もきめ細かく、具体的な手立てがなされています。

又、各学校区に地域本部が立ち上がっており、それぞれの特性を生かしながら進められている取り組みにも注目しています。地域ぐるみで子どもを育てることは教育の基本です。地域と学校が一体になって教育力を上げていく気運が高まれば、学校・保護者・地域の信頼関係もより高まります。

逗子市学校教育総合プランが掲げている「未来を切り拓く子どもの成長を支える」という言葉がこのように具現化されていくことによって、自ら考え、心豊かに、たくましく生きる子どもに育ってくれることと思います。

Q 教育現場で大切なことは？

私立学校の校長も務めた経験から言うと、私学には経営を優先させなければいけないプレッシャーがあります。本当は子ども中心が教育の原則。私が若い先生に繰り返し言ってきたのは「毒矢の例え」です。あくまで例えですが、子どもに毒矢が刺さったとします。そうしたら何をおいてもまず矢を抜き、手当てをしなければいけません。それをせずに「誰が、なぜこんなことをやったのだ。毒矢はどこから飛んできたのだ」と議論を始めてしまうようなことが結構あるのです。本来は原因究明や理屈は後回しにして、目前の子どもにすべきことが最優先です。

又、子どもの学力を更に上げていくためには、先生は自分自身の授業力を上げていくことが重要だと思います。

私が教育の原点として最も大切にしているのは、児童・生徒は「この学校で学べてよかった」保護者は「この学校に通わせてよかった」教職員は「この学校で働けてよかった」と思えること。この3つが実現する公立学校をめざします。

保護者は最も自然にして適切な指導者・教育者

Q 教育における学校と家庭の役割分担はどうあるべきでしょうか

子どもにとって一番の教育者は保護者。先生はその伴走者です。保護者に対して「家庭でどういう教育をしているんですか!?」などと言ってしまう先生もいますが、そうではなくて子どものために保護者と手を携える存在であってほしいと思います。子どもが育つ過程では欲しいから盗んでしまう、頭にきたからいじめてしまうということもあるかもしれません。肝心なのはその時の指導者・教育者の対応です。一方向だけを見ていると「だめじゃないか！」となってしまいます。それは最も楽な見方ですが、正確ではありません。指導者・教育者にとっては、対象をいろいろな角度から見ることが大切。家庭から見たらこう、先生から見たらこう、別な角度から見ればこうと、保護者と先生が協力して子どもを多角的にとらえてほしいと思います。そして理性で子どもの情動を抑えていくようにすれば、子どものちょっとした間違いが将来に悪影響を及ぼすことはありません。

子どもに問題が起こると「先生が悪い」「学校が悪い」などと感情的・批判的になる保護者も増えているようです。子どもを多角的に見ようとして、先生と協力する気持ちがあれば起こらない反応ですよね。利己的にならず、先生よりもっと身近で重要な指導者・教育者なのだという自覚をもっていただきたいと思います。

校庭芝生は児童と地域に活用してもらいながら検証中

Q 久木小学校の校庭が全面芝生化され、９月から使用されていますが

これは日本スポーツ振興センターのスポーツ振興くじ（toto）の収益から助成金を受け、初期投資が低コストで済む芝を使って実施したものです。久木小学校は近くに共同グラウンドがあって植え付けの間はそちらを利用できること、植え付けや維持管理にPTAや地域住民が協力できる態勢だったことが、実現の大きな力になりました。６月の苗の植え付けは児童、保護者、地域の人々、先生が一緒になって大勢で行ったそうですね。素晴らしいことです。久木地区の体育祭の様子や、芝生を通じて学校を支える地域の力が更に育っていくことが楽しみです。毎日、児童がどう動くかも楽しみ。それで芝生にはげる箇所ができたらできたで、使われ方が分かる訳です。ですから「はげかけているからそこで遊んじゃだめ」とか「そっと遊びなさい」などとは言いたくないですね。

地域にとっては、まず校庭から周囲に土ぼこりが飛ばなくなるメリットがありますが、子どもたちが転がったり駆け回ったりして楽しく伸び伸びと遊んでいる姿を見るのもプラスの効果があるのでは？

四季を通じてメリット・デメリットを検証し、市内のほかの学校からも要望が出れば増やしていきたいと思っています。

▲自分たちで低コストで植えられるポット苗のティフトン芝を採用。成長力の高い丈夫な品種で、６月17日に植えたものが、夏休み中に表紙写真のように青々と広がりました。

- ふわふわした芝生の上なら素足でも大丈夫。転んでも衝撃を緩和してくれるのでけがをしにくくなります。
- 子どもたちが積極的に校庭に出て遊ぶようになり、体力向上につながります。
- 通り掛かる市民にとって緑のじゅうたんは癒しの風景。
- 校舎や児童にだけでなく周辺住宅にも土や砂の飛散がなくなります。
- 日光で暖まると芝生に蓄えられた水分が蒸散。ヒートアイランド現象を軽減し、温暖化を抑制します。
- 芝生の管理を通して学校を取り巻く地域の人々がしっかり結びつき、コミュニティが充実。